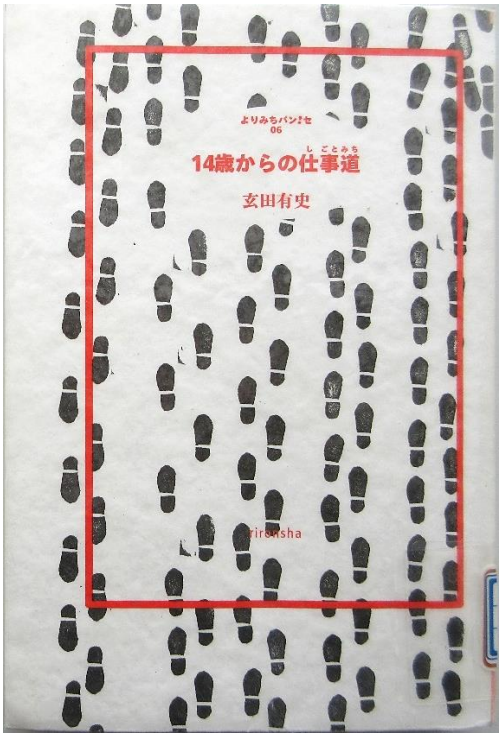
３／１２　校長室より No.383



今日の朝会で、『**14歳からの仕事道**』(玄田有史著：理論社)という本を紹介しました。キャリア教育や仕事に関する本はたくさんありますが、私はこの本が絶対お薦めです。目次には「やりたいことがないのは不幸なことではない」「“やりがいのある仕事”と“向いている仕事”は違う」「勉強とは“ワケわからん”にあきらめないこと」「“安定”なんて簡単に求めるな」など興味深いものが並んでいます。朝会では、「**カベの前でウロウロしよう!**」という項目から次の部分を聞いてもらいました。

　将来、高校や大学を卒業して会社に就職したとしましょう。そうすると、入社式や新入社員のための研修のなかで、会社の社長さんなどが決まって「もう君たちは学生ではないのだから、カベにぶつかっても、頑張って自分で乗りけろ」なんて言ったりします。

　でも、カベなんて本当には乗り越えられないことのほうが多い。正直に言えば、学校時代に身につけた知識や経験をどんなにフル稼働しても、社会はそんなに甘いものじゃない。自分のそのとき持っているチカラで乗り越えられないことばかりなんです。頑張れって言われたら、困って当たり前なんです。

　吉本興業の重役をしている横澤彪さんは、新入社員を前にしてこんなアドバイスをするそうです。「カベにぶつかっても無理して乗

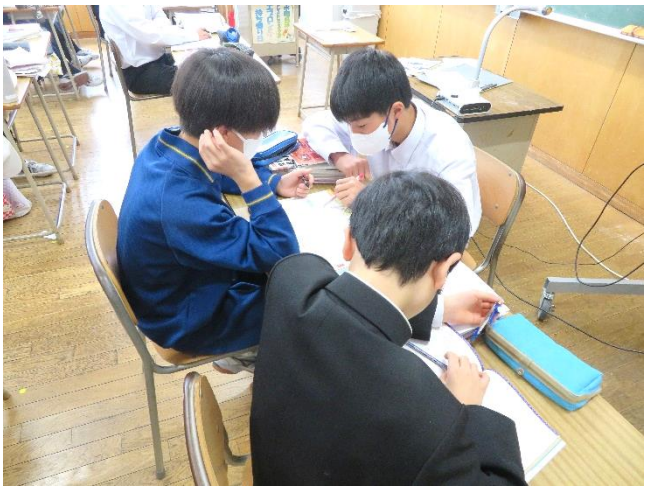
り越えようなんてするな。乗り越えられるはずがない。そのかわり、カベの前でちゃんとウロウロしていろ」。真剣にウロウロしていたら、ちゃんと誰かが見ていてくれて、助けてくれる。そのなかでいろいろと学んでいけばいい。　〈中略〉

　わからないなりに、何とかもがけるだけもがいてみる。カベの前でちゃんとウロウロしてみる。そうすると、あるとき突然、カベにぽっかり空いた穴が見つかったりする。カベのほうから勝手にガラガラくずれてきたりする。空からヘリコプターが飛んできて、そこからロープが下りてきて、それにつかまってカベを乗り越えることができたりする。仕事をするって、そんなもんです。

　この本は、飯豊中３階の書架にも置いてあります。中学生向けの本ではありますが、大人が読んでも、仕事に対しての気づきや面白い視点がたくさん詰まっています。もちろん、お子さんの将来を一緒に考えたりアドバイスしたりする上で参考になることもきっとあるはずです。お子さんを介して借りて読んでみてはいかがでしょうか。

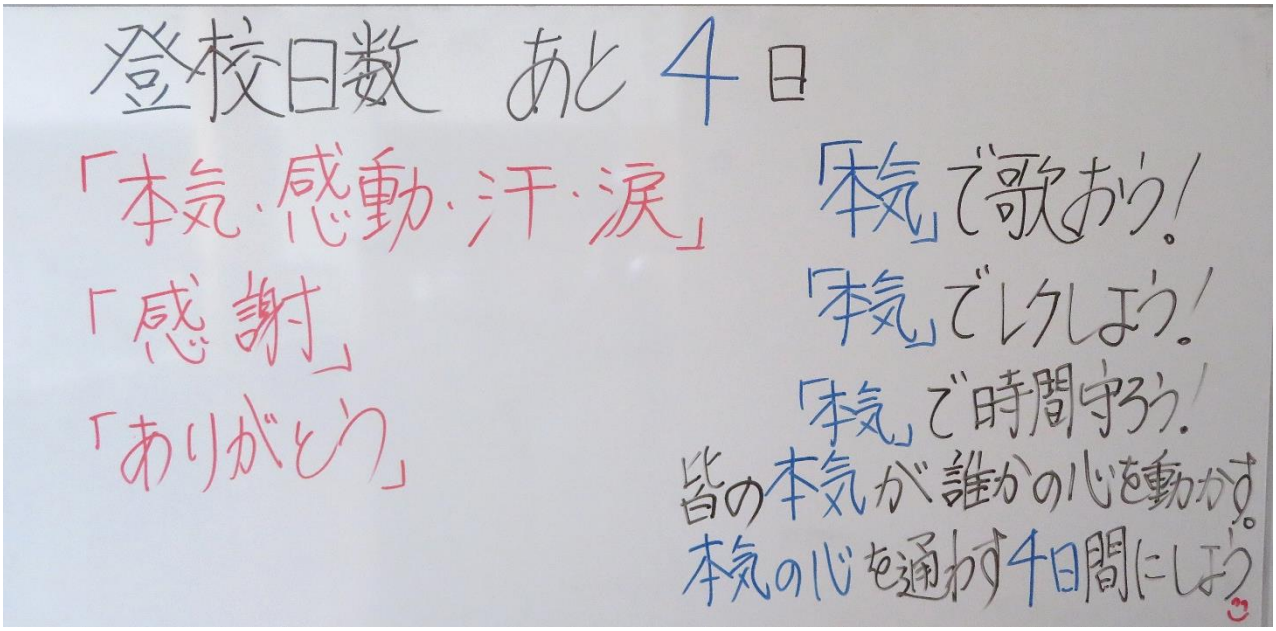
〈一年一組：美術〉

〈一年二組：数学〉



〈二年A組：英語〉

〈二年B組：国語〉

〈三年：合唱練習〉

〈三年ホワイトボード
学年主任からのメッセージ〉